

同済大学外国語学院「基礎日语拓展」（2年生前期）授業実践報告

山本，美紀
同済大学外国語学院：講師

<https://hdl.handle.net/2324/6632459>

出版情報：オンライン授業の地平：2020年度の実践報告，pp.114-114，2021-04-30．雷音学術出版
バージョン：
権利関係：(C) 2021 The Author(s).



1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

【授業の目的と概要】

本授業では聴く、話す、読む、書くの4つの技能の基礎を身につけ、コミュニケーションができる実践的な力を伸ばすことを目的としている。基本的な語彙や表現を理解し、日常的な場面でゆっくり話される会話を聞いて理解できること、また、かんたんな日本語で自分の言いたいことを話したり、書いたりできることを目指している。語彙、文法項目は中国人教員が担当し、それを使った日本語表現の練習やコミュニケーション活動を外国人数員(筆者など)が行っている。

【授業内容】

授業は全 17 回で、1回につき 90 分×2コマ(合計 180 分)。1コマを中国人教員が担当し、もう1コマを外国人数員が担当する。教科書は『新经典日本語基础教程』第2册(外语教学与研究出版社、2019 年 12 月 1 日出版)を使用した。各課の章題は次の通り。第 1 課 冬休み、第 2 課 勉強、第 3 課 英会話、第 4 課 小テスト、第 5 課 文化祭、第 6 課 社会見学、第 7 課 協力、第 8 課 病院で、第 9 課 アルバイト、第 10 課 旅行、第 11 課 誕生日、第 12 課 事件、第 13 課 部活、第 14 課 研修、第 15 課 ゼミ、第 16 課 忘年会。授業では当該課で取り上げられている文法項目を使った表現練習の他、章題に沿った動画や新聞記事、ブログ、観光地などからのリアルタイム配信などを行って、より実践的な日本語に触れつつコミュニケーション活動(グループディスカッションや口頭発表など)を行った。

【授業の形態】

受講者は1クラス 15 名程度で全 2 クラスある。中国人教員は現地(中国の大学の教室)で、外国人数員はオンライン(日本)で行った。オンライン授業には腾讯会议(Tencent VooV Meeting)を使用した。構造は基本的に Zoom と同じであるが、ブレイクアウトルームに類する機能はない。ただし、学生は教室にいるためそこでグループを作らせて活動させることは可能だった。

【成績評価の方法等】

試験は口頭試験とし、文章を発音した後いくつかの質問をし、最後に自分の意見を述べてもらう形式をとった。達成目標はタスク達成度、対話の理解、文法や語彙の正確さ、流暢さの4つとした。評価基準は大きく優、良、可の3つとし具体的に求められる行動や水準を決めてルーブリックによって採点した。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

【授業アンケートの結果】(原文ママ)

・教科書はよく分かるのに、日本人の話している言葉が分からないのはショックだ。

・日本人と同じ考えで、同じ中国人である同級生と考えが違ってくることもある。変な感じです。

・私にとって日本人の先生と話すことは試練です。名前を呼ばれると胸が苦しくなる。けど、それは時間が経つとなくなっていった。自信がついてきたのだと思う。それは私にとって嬉しい変化だ。

【教員の自己評価】

中国では座学が多いため、他の人と意見を交わしたり、自らの考えを述べたりする形式の講義は好まれる。多くの受講者は意見交換によって新たな知見を得たようである。

また、日本のリアルタイムの情報を提供できたことも喜ばれた一因だろう。実際のお店や観光地などから配信する授業は、筆者が日本にいたからこそできたことである。オンライン授業のメリットを活かした授業の1つであり、コミュニケーションを主眼とする授業の新たな形式として今後も模索してみたい形態だと感じた。